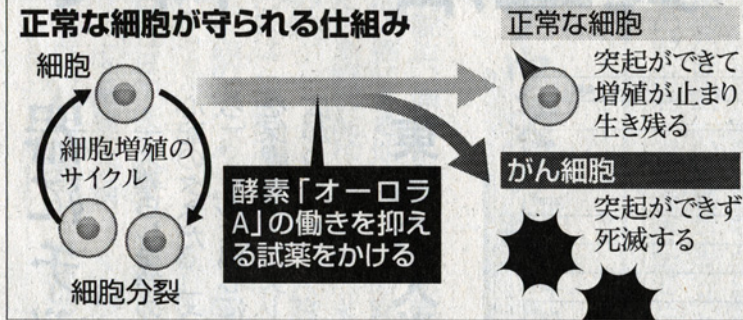


# 正常細胞 抗がん剤からどう守る

ヒトの正常な細胞の分裂だけを休ませて、がんの治療薬から正常な細胞を守る仕組みを、愛知県がんセンター研究所の稲垣昌樹部長らのチームが解明した。副作用の少ない治療薬の開発が期待できるという。米科学誌ジャーナル・オブ・セルバイオロジーで発表し、11日会見した。

研究チームは、がん細胞にはなく、正常な細胞が分裂を休んでいる時にだけ表面に現れる「二次線毛」という小さな突起に着目。この突起と細胞分裂の関係を、ヒト由来の正常細胞とがん細胞を使って調べた。

その結果、正常な細胞では分裂が進んでいる最中に、「オーロラA」という酵素が、突起を



## 愛知がんセンター 仕組み解明

作らないように作用していることが分かった。この酵素の働きを抑える試薬をかけると、正常細胞は突起ができて細胞の増殖が止まる。一方、もともと突起を作ることができないがん細胞は、分裂中に崩壊した。

「オーロラA」は、正常細胞、がん細胞にかかわらず、細胞分裂を促す酵素として近年注目されている。この酵素の働きを抑えてがんの増殖を食い止める新しい薬の開発が現在世界で進められている。だが、正常な細胞にどのように作用するかは、よくわかっていなかった。

稲垣部長は「オーロラA」だけを特異的に攻撃する方法の研究がすすめば、正常な細胞に副作用が出ない薬ができるのではないかと期待する。

「オーロラA」の研究を長年進めてきた慶応大先端医学研究所の佐谷秀行教授（腫瘍医学）も「新しい知識が加わったことで、がん治療の発展がより期待できる」と評価した。

(鈴木彩子)